

## 口頭試験報告

建設部門 土質及び基礎

平成 28 年 12 月某日 15 時～

試験官 2 人 A, B とも役人風で穏やかな人でした。

10 分前に試験室前に着席し待機。

前の方が押しているようで 15 時 4 分頃出てきました。その後 30 秒後に「どうぞ」と言われ入室。

「失礼します。〇〇〇〇の〇〇です。よろしく申し上げます」と挨拶し着席。

試験官 A「緊張されずリラックスしてください」と優しい言葉で少し落ち着きました。

試験官 A「では業務経歴を 3 分間で述べてください」

私「昭和〇〇年・・・・・・・・・・・・・・・・。現在は〇〇工事の現場管理をしています」

経歴と業務詳細合体バージョンを 5 分と 3 分で練習していたので経歴だけで 3 分は少し長いなど感じましたがどうにか 3 分近くで説明できました。

試験官 A「では業務詳細について説明してください」

これには時間制限が有りませんでした。

私「堤体の陥没箇所の調査に〇〇式探査を用い・・・・・・広大な範囲を調査しました。対策工は〇〇と薬液注入工法を選定しました」

試験官 A「では、〇〇式探査について、知らない人でも分る様に説明してください」

私「この探査は〇〇の原理であり・・・・・・・・・・・・です」

所々に専門的な用語を入れてしまい言い直すこと 3 回程度ありました。また〇〇式探査について 2, 3 の質問が有りました。続いて、

試験官 A「技術士にふさわしい内容はどんなところですか」

私「広大な堤体状況全体の土質状況を把握し、・・・・・・及びコスト縮減に寄与できたところ です」

試験官 A「対策工の〇〇について説明してください」

私「(工法について説明)」

試験官 B「海沿いで薬注を実施すると海への流失が懸念されますが」

私「薬注は〇ショット方式にし、〇〇材料を使用しました」

試験官 B「どんな材料ですか」

私「〇〇〇です」

試験官 B「〇〇工事を行っているようですが、技術的にどのような事?を実施し

ていますか(このような質問だと思います)」

私「老朽化が進む施設の改修提案や〇〇部材改良などを実施しています」

試験官 B「うんうん」と頷いていました。

ここから筆記試験選択Ⅲの質問となりました。

試験官 A「品質確保で最も必要なことは人材育成としていますが、どういうところから人材育成が必要と思いますか」

私「技術の継承により・・・・・・・・からです」。

この回答から今度は倫理についての質問となりました。

試験官 A「あなたが技術士となったらどのような形で人材育成していきますか」

私「自分が経験してきたことを、若手技術者に勉強会・現場などを通じて指導していきます」のような事を言ったと思います。

試験官 A「(もうひとつ倫理に関する質問がありましたがよく覚えていません)」

試験官 AB「これで終わります。お疲れ様でした」

私「ありがとうございました。よろしく申し上げます」と言って退室、時計を見ると 15 時 21 分でした。外には待っている人はいませんでした。

口頭試験は 3 回目の受験であることから、なんとなく落ち着いて受けることができました。(過去 2 回は緊張のあまり言葉が出てこなくなり不合格)

今までは参考書 1 冊で勉強していましたが、今回は SUKIYAKI 塾の口頭試験対策を参考にさせていただき、勉強になりました。ありがとうございました。

3 月 1 日 どうにか合格する事が出来ました。